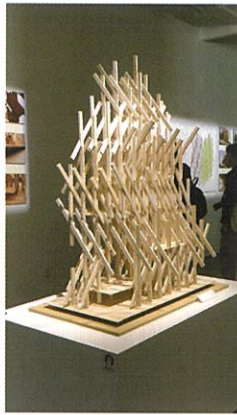


「木」と「九州」の隈建築 模型特別展示

国立競技場、ハンス・クリスチャン・アンデルセン美術館など、国内外の「木」の隈建築、2029年開館予定の新福岡県立美術館、スターバックス太宰府天満宮表参道店など、「九州」の隈建築の模型を特別展示します。



浅草文化観光センター



Yure



国立競技場

青井の杜 国宝記念館 2F ギャラリー 門外不出。「国宝附棟札」特別展示

国宝の建造物の附（つかけたり）として指定された棟札。

建造の年月日や施主・大工の名前などとともに、この地が「正是神明相應之勝地也」（まさにしんめいそうおうのしょうちなり）という一文が記されている。神明相應の地とは東西南北の4方向それぞれに神がいる「四神相應の地」という意味も含まれており、青井阿蘇神社は、かつての平安京のような四神が守る天然の聖地と考えられてきたのである。

※附（つかけたり）とは、建造物、美術工芸品、考古資料、歴史資料等を重要文化財や都道府県指定文化財等に指定する際に、文化財本体に関連する物品や資料等を本体と併せて文化財指定することである。



青井の杜 国宝記念館 大広間 一般公開展示

隈研吾設計によって、

新築開館した「青井の杜 国宝記念館」の大広間および玄関ホールを特別に一般公開いたします。

大広間の市房千年スギの柱の他、玄関ホールの屋久スギの柱、建物外周に立つ、十一本の挟野スギの原木丸太柱など、建築用材として目にするものが稀な、貴重な木材の、美しく力強い姿をご覧ください。



© Masaki Hamada / Kkpo



国宝 青井阿蘇神社

人吉球磨を代表する神の場所。

806年阿蘇神社の御分霊を勧請して創建され、人吉では親しみを込めて「青井さん」とよばれている。

国宝指定を受けているのは本殿、廊幣殿、拝殿、楼門の建造物五棟と、附として、造営時の棟札一枚、改築の年代や内容が明記された銘札五枚。

北から南に位置する五棟一連の御社殿は、相良20代長毎公が江戸時代はじめの慶長15年（1610年）から18年（1613年）の4カ年にわたり造営したもので、400年以上前の希少な建造物である。一連の御社殿が同時期のものは全国でも大変珍しく、屋根の棟が高く勾配が急な茅葺き屋根をはじめ、随所に桃山様式をとり入れた多彩な装飾や色彩、南九州地方にみられる雲龍の彫刻等が見事に施されているのが特徴で、華やかさと迫力を醸し出し、圧倒的な存在感を示している。